グループホーム愛ランドまめじま・あやめ棟

（別紙の２）

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、事前研修で確認し合った理念を共有し、「利用者本位」の支援に努めている。	法人の理念に基づきグループホームの理念が作られている。玄関にも掲げられ来訪者に示されている。職員は理念を理解し日々の支援に活かしている。	外部者から見てもわかり易い具体的な目標作りを期待したい。
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等の情報を基に地域行事への参加に努めるとともに,日常的に地域の方々と挨拶を交わし、声をかけて頂いたりしている。	開設より1年弱、地域の方々にグループホームを理解して頂こうと毎日入居者と散歩に出かけ、あいさつや会話など積極的に行っている。ボランティアの受け入れがあり、入居者の生活に潤いをもたらしている。	地域の行事や奉仕活動などに参加することにより地域の情報等を更に集めていただき、地域から必要とされるホームを目指して頂きたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に運営推進会議の場で地域役員の方々への働き掛けを行うと共に、地域ボランテイアの方々との交流を通して理解を深めて頂いている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、グループホームの現状や今後の取組等について話し、区長さん、民生委員さんから質問いただいたり、市のご担当の方や家族の方などよりの意見を頂き、今後に生かすべく努力している。	運営推進会議は家族代表、民生児童委員、区長、地域包括支援センター職員、市職員で構成され2カ月に1回行われている。事前に議題等を示し、ホームへの提案等をして頂いている。委員の働きで小学校の運動会に来年から招待して頂ける方向で進んでいる。	
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の地域密着型サービスへの取り組み方針と実際の現場でのあり様について、機会あるごとに市担当者に相談を重ねている。	介護認定の更新や保健所から衛生保健面での指導を受けるなどこまめに相談している。また、受けた情報を職員と共有するような場を設け伝えている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員は、事前研修において禁止の対象となる行為を理解しており、言葉の拘束や過剰な薬物の拘束も行っていない。毎日の生活の中で必要でないと思われる薬物は医師と相談して排除するよう努めている。	身体拘束は行っていない。居室に鍵はあるが中から自由に掛けることが出来る鍵であり入居者の意思で使用している。入居者の中に外出傾向の強い方がおり、職員間での話し合いが何度も行われた結果、現在は安全上玄関は施錠されている。折を見て改善可能なことは行なっていきたいとの意向である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全ての職員は、事前研修において、高齢者虐待防止関連法について理解しており、たとえ小さなことでも気づいたことは職員同士又は個別に注意している。		

グループホーム愛ランドまめじま・あやめ棟

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は概要は理解しているものの、現在対象となる方はいない。今後グループホームネットワーク会議や研修の機会を持ち、職員全員で学んでいく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書、重要事項説明書,運営規程等の全項目を家族等と一緒に確認し、質問などに答え、理解、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時、意見、要望など出して頂きやすい対応に心がけている。運営推進会議でも,家族の方より意見などを出して頂く機会があり、月1回のミーティング時に改善に向けた話し合いの場がある。	家族の来訪時には、近況などを報告し家族と職員の関わりを深めるよう努めている。毎月入居者の近況と身体の調子など気付いた点を綴り、スナップ写真とともに送っている。頻繁に面会に来れない家族にとっては様子がわかり喜ばれている。玄関には、意見など書いて頂く用紙が置かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、月1回のミーティングの機会に、運営に関する職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。	月1回のミーティングがあり自由に意見の交換が出来ている。職員の提案や意見にも管理者からの回答が迅速でやりがいを感じている。施設長による個人面談があり各職員の発言の場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場やケース会議に参加し、安全で働きやすい労働環境創造を心がけている。残業を極力しないようにし、各自の介護への思いが実現しやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自身の介護への取り組みにはそれぞれ課題を持って頂いており仲間との意見交換により柔軟な対応をしていただいている。必要な研修は積極的に参加して頂きたいし支援していきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の協会に参加するとともに、経験のある同業者との勉強会や相互訪問、意見交換を行いサービス向上をめざしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時、ご家族等と一緒にご本人も同席して頂き、要望や不安なこと等話しやすい環境作りに心がけ、入居初日もほっとするような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に当たり事前に家族等と面談し、困っていること、質問、要望等を受け、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の施設見学時や、ケアマネージャーから頂いた情報を検討し、家族が必要としている支援を見極め判断し、他のサービスが必要であればそれを含めて面談に臨んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人が今までの暮らしを当たり前に行ってきたことを継続きるよう支援している。中でも「食」にかかわる部分は大きく、準備、片付け等も一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族が来所して頂きやすい環境を整え、来所時は、現在の生活の様子などを伝え、家族からはかつての生活の様子や性格、環境などを聞き取り、今後の対応に生かしている。又自室で本人、家族だけの時間を過していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで過ごしてきた家、地域の人々などとのかかわりを大切に思い、希望があれば家族との電話、馴染みの方との面会、家族には自宅への外出、外泊も勧めている。	お正月や各家庭での特別な行事などの帰宅を支援している。家族と一緒に自宅で正月を迎えた入居者もいる。昔からの友人がホームへ訪ねて来ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットごとに1つのそれぞれ特徴のある「社会」が出来ており、その中で一人一人の個性を大切にしながら、利用者同士が関わり支え合えるよう日々工夫しながら支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した家族に対して、必要に応じてその後のフォロー、相談、援助も行い、関係を大切にしたい。入院の為退居した利用者に回復の祈りを込めて千羽ツルを持参して見舞ったりして関係を保っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は一人一人の想いや希望や意向を理解しており、あくまでも本人にとってどう関わることが一番いいのか日々の対応の中で検討、努力している。	現在入居している方の多くが自分の意思を表現でき、職員との意思疎通が出来ている。言葉で表現できない方には、表情や態度などから職員は読み取っている。今後入居者の重度化が予測されるが、日々の関わりが更に深まることからかなり本人の気持ちを理解できるのではないかと職員間での検討、情報の共有化に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は、サービス導入の段階で、聞き取ったこれまでの生活歴、環境などの情報は把握しており、来訪時など家族等との会話の中からさらに情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの暮らしの中から、一人ひとりの状況を職員は把握しており、、更に何気ない毎日の会話の中からも情報が得られている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月１回のケースカンファレンスを行い、課題の把握や日々の生活での気づきなどを反映させた介護計画を作成している。	入居者や家族の希望、職員の意見を参考にしケアプランを作成している。毎月の定例会で入居者のカンファレンスを行っている。現在ケアプランの見直しを徐々に始めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録を活用し、日々の変化がわかりやすくなっている。又連絡ノートやケースカンファレンスなどで情報の共有をするように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居しても住み慣れた家のこと、家族のことが心配になったりした時は、実際家に行ってひと時を過ごしたり地域に出向くなどの支援(ほとんどは家族が同行している)や、利用者の希望、スタッフのアイディアなどで柔軟に対応している。		

グループホーム愛ランドまめじま・あやめ棟

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーへは毎日交代で買い物(食材)に一緒に行き、食材を選んだり、ちょっと足を延ばして花屋で花を買って庭に植えたり、レストラン(外出時の弁当)、美容院、理容院など、出向いたり出張していただいたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医があれば、本人や家族の希望で引き続いて医療を受けて頂いており、受診の際、日頃の生活の状態や体調などを家族に伝え、医師に報告して頂いている。	入居以前のかかりつけ医よりホームの協力医に入居者や家族の希望で変更する方もいる。協力医による月1回の定期的な往診が行われている。また職員が付き添い受診することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の関わりの中での情報や気づきを看護師に伝え、医師に相談する体制が出来ており、緊急の場合はもちろん、判断に迷うことでも早急に相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時、医師からの説明を受けたり頂いた情報を家族と共有し、その後の治療に向け家族を通じて病院関係者と連絡体制がとれている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時「重度化した場合における対応にかかる指針」を文書で確認し合い、重度化した場合には本人、家族の意向を尊重し、協力医療機関、看護師、スタッフが互いに連携して情報を共有しながら介護に当たる旨の確認を行っている。	「重度化した場合における対応にかかる指針書」が作られており、入居期間中に医療行為が必要となった場合には家族、医師、職員が連携し情報を共有しながら対応することを説明している。	現在の入居者には元気な方が多くおられるが、今後のことを考え、重度化や終末期(看取り)等に関する計画的な職員研修を望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は、急変や事故発生時に備えて看護師による応急手当や初期対応法の研修を行っており、今後も折に触れて行っていく予定である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	車いす利用者も含めた避難経路確保に努め、運営推進会議では災害時に地域の協力を求め、地域消防団の視察を受けている。	各居室、フロアー等にはスプリンクラーが設置されており、自動火災報知機や消火器等が見やすい場所に設置されている。事務所内には緊急時の連絡網が掲示されている。7月には職員の訓練、9月には入居者参加の訓練を予定している。	防災設備等に関しては万全な策が講じられているが、今後は消防署や地域の協力を得ながら昼・夜想定の避難訓練等を定期的に実施されることを望みます。

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は,一人ひとりの今までの暮らし方、地域や家族等との関係性を把握しており、誇りやプライバシーに配慮した言葉がけや対応をしている。	名前や氏名に「さん」づけで呼んでいる。年長者として人格を傷つけることがないように職員同士で気をつけている。入居者に対し失礼な言葉遣いや態度などがあった時にはその場で注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の生活の中で、全ての職員と利用者の良好な関係を作り、いつでも自分の思いや希望の表出や自己決定できるようできる環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆で何かしたい時、話したい時などは、自然に皆が集まってきており、自ら一つの社会を作って生活している。一方、プライベートの時間もそれぞれのペースにより作られており、自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、起床時など本人が衣服を選んだり、スタッフの助言でそろえている。入浴後髪型など本人の希望に沿った支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一応のメニューは決まっているものの、購入済みの食材の範囲の中で、話題に出た又は希望した料理に変更するなど柔軟に対応している。又好みに合わないものは出来る範囲で本人と確認しながら変更している。準備、後片付けも皆さんに声がけしながらやっていただいている。	同じ敷地内の有料老人ホームの栄養士が献立を作成している。大まかな食材は業者に注文しているが、足りないものなどを近くのスーパーまで買い出しに行っている。入居者は下ごしらえや盛り付け、片付けなど職員と一緒に行っている。ミニ菜園で収穫したキュウリやトマトなどが食卓に上ることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	隣接する有料老人ホームの栄養士が立てたメニューを参考に、利用者に調理に関わって頂きやすい、又一人ひとりの状態や好みなどを勘案して作り直している。水分摂取は3度の食事の他2回のおやつ時、水分摂取が確実にできている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後直ちに歯磨きを自発的に行っており、介助が必要な利用者には、一人一人の状態に応じた口腔ケアをしている。		

グループホーム愛ランドまめじま・あやめ棟

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全職員は一人ひとりの排泄習慣を把握しており、トイレでの排泄を常とし、失敗を少なくすることが出来ている。又排泄が自立している利用者が失敗した時にはプライドを傷つけないよう家族の協力を頂きパットなどのアドバイスをしている。	大半の方がリハパンを使用しているが、現在は各自の意思でトイレに行けている。浴室からトイレへ通じる造りになっているので失敗した時なども人目につかないように処理できている。入居者によっては居室にポータブルトイレを置き、夜間のみ使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は個々の排便サイクルを理解しており、便秘は体調や気分を左右することから、水分摂取、運動、野菜を多く取れるような献立に配慮し、予防に努めている。。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には最低週2回の入浴だが、本人の希望があればいつでも応じる用意がある。入浴日も本人の意思を尊重し、希望に応じて入浴している。	入浴を拒否する方はいない。入居者によって入浴時間はさまざまであるが、職員が介助しながら入浴している。菖蒲湯、ゆず湯、バラのお風呂、入浴剤使用など、雰囲気を変える工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンがあり、それを尊重しつつ、その日その時の状況を判断しながら安眠安息できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりの薬の目的、用法などを理解し服薬支援を行っている。日々の状態の変化の観察も連携を取りながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴に沿った役割分担が出来ており、感謝したりされたりと喜んで生活できるよう支援している。陽気の良い時は戸外にテーブルを移してお茶や食事をし、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩時(夏は朝夕2回の時も)、農家のお宅のりんごやモモ、ブドウの成長を見ながら季節を感じ、敷地内の猫の額ほどの畑や発泡スチロールのミニ田んぼなどで作業をしたり、収穫の喜びを感じられるよう支援している。陽気の良い時はバスをチャーターして日帰りミニ旅行をしている。	冬の寒い時期を除き毎日散歩に出かけている。ホームは幹線道路から少し入ったところにあり、田畑が周りに広がっている。行き交う近所の方とのあいさつも一つの喜びとし散歩をしている。冬はユニット間の廊下を「今何週目ね」、「じゃあお菓子1個ね」などと声を掛けながら体力の維持を図っている。この春にはバスを借り、「バラ公園」へ全員で行き、色々な種類のバラを楽しんできた。	

グループホーム愛ランドまめじま・あやめ棟

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を持つことの大切さは理解しているが、利用者が入所時持っていたお金は持つことによる不安を訴えるため家族が預かっているケースが多い。今後本人からの希望があれば所持し、使えるよう支援していく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、家族と自由にやり取りできるよう支援している。		
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室や食堂など常に気持ちの良い空気を取り入れている。食堂から見える外に皆で植えた花のプランターやミニ田んぼを置き、季節感を味わっている。テレビは見ていない時は当然消すが、静かに過ごす時間が多く持てている。	リビングには大きなテーブルが2卓置かれている。手作りの大きなカレンダーが飾られていたり、ミニ旅行のスナップ写真が張り出されている。キッチンとリビングがつながっているので自由に食事作りの手伝いが出来る。料理中のいい匂いがし、生活感があふれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中ではそれぞれ自分の居心地の良い場所が決まっており、他にソファなどで過ごしたり、気の合った利用者同士でおしゃべりをするなど思い思いに過ごす環境作りの工夫をしている。		
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室は本人と家族が相談してレイアウトしており、スタッフはその思いを尊重し、整理整頓に努めている。	備え付けのベッド以外、各々の家庭より馴染みの品物が持ち込まれている。ボランティア及び入居者、職員合同で作った手作りのカレンダーが飾られており居室のポイントになっている。入居者が職員と一緒に干した洗濯物が窓際にあったりして家庭の延長線上の生活感を随所で感じた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に字の大きい表札代わりの紙を貼ったり一緒に作った作品を掛けて目印にし、安心して生活できるよう工夫している。常にスタッフが行動を把握し、プライドに配慮しながら必要により声がけしている。		